

北魚沼あぜ道情報

田植えの
5月

雪の下からようやく田んぼの顔が見えました。
澄んだ雪解け水で☆キラキラ☆眩しい!!

生産者紹介コーナー



「北魚沼の匠人」
関 武雄 さん

「雪消えが昨年より1週間も遅く心配された魚沼もようやく雪が消え、米作りを始めて36回目の春を迎えました。また、1年の始まりです。
5月中旬の田植え時期を迎え、ハウスの苗たちも順調に成長しています。
今年も、お客様から満足して頂ける、安全で安心な、味の良なお米に仕上げたいと思います。」

白い雪に包まれて眠っていた田んぼが、やっと顔を見せました。澄んだ雪解け水でキラキラと輝いていますが、硬くなった田んぼの土をかき混ぜる作業がもうすぐ行われるので、このキラキラした姿もほんの少しの間だけです。

きれいだねエー父ちゃん!
お前のキラキラも一時だったな:
フーン!悪かったね!

さて、今月から始まりました生産者の紹介コーナー「北魚沼の匠人」
生産者を紹介することで、皆さんに安心感を与えられたらいいなあという思いから始めました。

記念すべき第1回目の生産者は、お米をはじめとし、小玉西瓜(皮が薄くて美味しい品種です。)や八色菜など、魚沼の特産品を生産している専業農家です。

いつもニコニコして優しく穏やかな人ですが、米作りを語る時は顔つきが変わります。
36回目の春。毎年気象条件が違う米作りは、やり直しがきかない一発勝負の真剣勝負なんです。

美しい魚沼写真コンテスト優勝作品



す。ですから36年目ではなく36回目の春、1年のはじまりという言い方になるんですよ。そんな匠人に丹精込めて作られるお米。今年も期待出来ます。
さて田植えの時期となりました。
管内では一斉に機械の音と土の匂いでいっぱいになります。
柔らかな耕された田んぼに水を張り込むと、タプンとプリンのような田んぼになり、いよいよ田植え作業が始まります。
田植えが終わった田んぼは、まるで鏡のように様々な景色を写し出します。
青い空、白い雲、そびえ立つ山々。時折、おたまじゃくしがその可愛らしい姿で線を描いていきますが、それも微笑ましい光景です。
植えられた苗は、田んぼの栄養分を吸収してあつという間に鮮やかな緑色に色づき、まるで田んぼに緑の絨毯を敷き詰めたようになります。
そして、秋には黄金色に...
色々な顔を見せて生産者を癒してくれる田んぼ。愛情込めて管理する甲斐があります。その愛情に応えるように、秋には美味しいお米が実を結びます。
父ちゃん!今年も美味しいお米作ってね!
(JA北魚沼 佐藤)



野村の田んぼ観察日記



5月。ついに田植えが始まり、北魚沼産コシヒカリ生産の舞台はいよいよ水田に移ります。
左の写真はこれから私が観察日記をお送りする予定の水田ですが、撮影した4月末の時点では、まだ雪に覆われて一面の銀世界でした。北魚沼の中でもわりと山奥にある私の自宅は、大型連休に庭でかまくらを作って遊べるほどに沢山の残雪がありました。...そう、去年の冬は豪雪だったのです。
おかげで今年はおいしい米作りに欠かせない、きれいな雪解け水がたっぷり!山里の雪が減っていくにつれて川の水量が増し、川の色味も冬の澄んだ黒色から深く豊かな色合いに変わっていきます。
山のミネラルを沢山含んだ雪解け水は、田植えが終わった水田いっぱいには張られ、苗の成長を促すとともに、まだ植えられたばかりで根が十分に張らず、かわいも若苗を夜の寒さからしっかりと守ってくれるのです。コシヒカリの若苗よ、きれいな水と農家の皆さんの愛情をたっぷり吸収して元気に育て!
(野村)

